

平成二十四年四月二十五日提出
質問第一一三三号

政府による対ミャンマーODA再開と邦人殺害事件の真相解明の関連性等に関する質問主意書

提出者 浅野 貴博

213

政府による対ミャンマーODA再開と邦人殺害事件の真相解明の関連性等に関する質問主意書

二〇〇七年九月、ミャンマーで民主化を求める僧侶や市民のデモをミャンマー軍事政権が鎮圧している中、その現場にいた日本人ジャーナリストの長井健司氏がミャンマー治安部隊に射殺される事件（以下、「長井事件」という。）が発生している。一方で野田佳彦内閣総理大臣は、本年四月二十一日、訪日したミャンマーのテイン・セイン大統領と会談した際、同国における民主化等への取り組みを評価するとして、二十五年ぶりに同国への円借款を再開し、約三〇〇〇億円の債権を段階的に放棄する旨表明している。右を踏まえ、質問する。

一 今回我が国としてミャンマーへの円借款を再開し、債権放棄に応ずるとした理由につき、改めて説明されたい。

二 「長井事件」の真犯人の特定や長井氏が所持していたビデオカメラの返還等、同事件の真相解明は現在どのような進捗状況にあるか。また政府として、右に向けたミャンマー政府の取り組みを現時点でどのように評価しているか。

三 今回我が国がミャンマーへの経済協力を再開することを決める際、二の「長井事件」の真相解明に向け

た同国政府の取り組みはどうか考慮されたのか説明されたい。

四 政府として、「長井事件」の真相を解明することをあきらめているのか。

五 政府として、「長井事件」の真相解明を今後どのようにミャンマー政府に求めていくのか説明されたい。

右質問する。